

2021年度 第2回須坂市子どもの学びのあり方検討会議 会議録

2021年7月27日 9:30～11:30

須坂市生涯学習センター 3階ホール

1 開 会（中村学校教育課長）

2 あいさつ（小林教育長）

今日来てくださった8人の小中学生の皆さん、夏休みの大切な半日を、ここに来てくれたこと本当に感謝してます。ありがとうございます。そして保護者の皆様本当にご協力いただきありがとうございました。

先日からのコロナ禍でオリンピックが始まりました。いろんな条件のある中で私は選手の皆さんに、夢を追って絶対にあきらめないってこと、仲間を信じきるってことをスポーツっていいなと思いながら、いろんなことをあの姿から教えてもらっています。

さて、この会は幼稚園、保育園の園長先生や、小学校、中学校、高校の校長先生あるいは教育のことをいろんな角度から考えてくださっている皆さん、それから皆さんよりちょっと先輩など、いろんな方々が来ています。そして皆さんが欲しいタブレットがわたりましたよね。おそらく皆さんも少しずつ勉強の仕方が変わってきてるなって思いながら勉強してると思うんですが、今、こうやって世の中が大きく変わろうとしてるとき、皆さんが今勉強することは、一体どういうふうにして勉強していったらいいんだろうか、あるいはどんなことを学んでいったらいいんだろうかってことを一生懸命考えている、そういう会なんです。

あるとき、いや、今実際に勉強している皆さんに、意見を聞くことが大事なんじゃないっていう意見が出ました。みんなそうだなって思いました。そして今日、皆さんに、ここに来ていただいています。

今日のこれからの時間は授業ではありません。逆にですね、私達にとって、皆さんの話してくれることがとても大事な言葉でして、逆に言うと皆さんが私達の先生かもしれません。ですので、どうか日頃感じていることを自由に話してください。

ぜひそんなことで、これからの時間を使っていいただければありがたいと思います。

今日の会を進行してくださるお二人の先生がたをご紹介します。

皆さんから向かって右側の先生が伏木久始先生です。先生は信州大学の先生で、須坂市の先生方は、もう何年も何年も先生に皆さんの勉強の仕方について、教えてもらってきました。ですので、先生方にとっても、須坂市の先生方にとっても先生なんです。そして大学の先生ですが、実は小中学校で教えた経験もありなので、皆さんとこれから楽しい話がきっとできるんじゃないかなと思います。それから、日本以外の 国も、いろんなところの教育を見てくださっているのです、そんな話も聞かせてもらおうと、すごくなんか面白いと思います。

こちらの方は宮崎愛斗さんです。信州大学の3年生です。皆さんよりちょっと先輩の方ですので、皆さんと同じような気持ちで、皆さんにアドバイスをしてくださるかもしれません。いずれにしても、これからしばらくの間皆さんどうぞ楽な気持ちで、私達にいろいろと、話をしてくださると嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。

（中村課長）

ではここからはですね、小中学生による小中学生による対談をお願いしたいと思います進行の方は伏木先生にお願いいたします。

3 小中学生による対談（進行 伏木座長）

（伏木先生）

それでは改めまして皆さんよろしくお願いいたします。

今からですね、50分間くらいで皆さんと私達との話、お話ができるといいなと思ってるんですが、いただいているテーマは、私が望む授業、こんな学習をしたいっていう、そういうテーマで意見交換ができればなって言って、今日が小学校4年生から中学校3年生までの皆さんに来ていただきましたので、学年の順番に1人ずつ話していただければ、嬉しいなと思います。お話を聞いた後に、私達の方からまた「こんなことはどう」っていうふうに質問するかもしれません。では、まず最初に皆さん方からお願いしたいと思います。それでは最初、A小学校四年生のD君からぜひ聞かせてください。よろしくお願いいたします。

(D君)

僕は自分で楽しくできる方法や、自分のやりやすい、勉強もやれたらいいと思います。それで僕は社会の授業の時に、自分で楽しくできるように、iPad、と白地図を一緒にやって楽しくできました。友達に聞いたり、自分の楽しくできる方法も考えられて良かったです。

(伏木先生)

はい、ありがとう。

最初色緊張せずに、お話しできましたありがとう。続きまして、A小学校の同じ4年生ですね。Cさん、お願いします。

(Cさん)

私は友達と話して一緒に勉強できる授業にしたいです。算数の角度の授業を最近やって、普通の授業だとわからなくてもどんどん進んで やって全くできなかったけど、納得できるまで勉強してきて、できたし、友達にヒントとかをもらって教えてもらったからよかったです。

(伏木先生)

はい、ありがとう。

その2人がね、4年生の2人からお話伺ったんだけど、2人が書いてくれた作文の中に自由進度学習という言葉が出てくるのね。そのことについて、D君くんは自由進度の方が友達にも先生にもやり方を教えてもらったり、質問できることはよかったです。って書いてくれていて、Cさんも自由進度学習だと友達と話せてよりよくわかる。それから普通の授業だとわからなくても、どんどん進んじゃう。だから焦っちゃうけど、自由進度学習だと理解してから進めるから安心するって書いてくれて、ここんところ、ちょっとどんな感じかお話してもらっていいかな。

(D君)

自分でわからないところがあったら、授業のときは先生が授業を進めてるから、そんなに何か聞く雰囲気がないから何もしてないけど、自由進度のときは自分から進んで先生に聞いたり、隣の席に座ってる友達に聞けるから、自由進度はいいです。

(伏木先生)

なるほど。D君の担任の先生をよく知っていますけど、すごくいい先生で、みんなの声聞
いてくれる先生だと思うけど、だけど普通の授業だと、ちょっとしたら聞けない感じがあ
る。だけど、自由進度学習ってやり方だと、自分で考えたりとか友達とちょっとこれ相談し
たりっていうことがしやすいっていうことなんだね。ありがとう。
Cさんどうですか。

(Cさん)

友達にすぐ聞けたり、他の友達にも教えられるからいいです。

(伏木先生)

なるほど。他の普通の授業のときは大勢の子ども達がいる、先生が1人でみんなに一律に
教えなきゃいけないってなかなか皆が自分のペースでこう考えとか、質問したりとか、友
達に教えたりってことはなかなかしにくいんだけど、自由進度だとなんとなく気軽に友達に
教えたりとか、教えてもらったりしやすいかな。ありがとうございます。

フロアの皆様ね、ちょっと聞きなれないかもしれませんが、今、A小学校では自由進度
学習っていう言われるような勉強のやり方ですね。先生はものすごく準備をされてるん
ですけど、基本的に先生が教えるんじゃなくて、子供がどこまで自分の力で1人学びが
できるのか。場合によっては友達同士で教えあいながら進められるのか。先生が教え
込むのではなくて、子供たちが自分で勉強する機会を与えていく、そういう自立的に
学ぶ時間を与えるという挑戦を、校長先生のもとにですね、研究主任の先生中心に
進めておられると。

今日はそのクラスのお子さんたちの声でした。

ありがとうねまた後で質問させてもらうかもしれません。

では続きまして6年生の話を聞きましょう。ではB小学校6年のB君、よろしくお願
いします。

(B君)

僕はこれまでの授業として、こんな授業があってほしかったなと思うことについて、ま
ず一つ目は、道徳の授業で少し 登場人物の心境や行動を読み取って、よく考えて学
ぶことができ楽しかったです。そして二つ目は算数の授業で公式を理解した上で、この
公式を使

い、いろいろな問題を解いていくのが面白かったです。そして、あまり面白くなかったなと思う授業について、まず一つ目は国語の授業で、いつも毎回文章から書き抜いたり引用をしたりして、書くなどをしていると、あまり変化がなくて面白くないなと思いました。

そして二つ目は、算数の授業で、たまには違う解き方でやるという指定があったほうがいろいろなやり方を知ることができて面白いのに、そういったことはあまりされていなくて、面白くなかったです。最後にこんな授業をしてみたいな、こんな授業を行うともっと良くなるんじゃないか、と思うことを考えました。まず一つ目は、世の中だんだん時代が変わっていくので、それにつれて、例えば iPad やパソコンなどといった精密機械を使った学習をもっと増やしていけばいいなと思いました。そうすれば、全体的な授業を進めていくときに、時には、自分たちで教科書などを見て、やりたいといった問題をやってもいいなと思いました。最後に三つ目は、もっと他の学校と交流をすればいいんじゃないかなと思いました。なぜなら、将来には、いろいろな人と知り合うことが多いと思うので、今のうちに慣れていったほうがいいだろうと考えたからです。以上が、僕が望む授業こんな学習がしたいでした。今回のことを通して思ったことは、もっとその人の意見を取り入れていければ、学校生活はもっとよりよくなっていくんじゃないかと思いました。

(伏木先生)

はい、ありがとうございます。

何か先生たちが聞いたらドキッとするようなね、こんな授業をを望みたいっていうときに、こんな授業よかったってことまで書いてくれて、何かその辺つつこみたいとこですけど、もう1人ね、同じ学校のAさんの話を聞いてから、この話はこの2人に質問をしていきたいなと思います。続けてAさんお願いします。

(Aさん)

私は、こんな授業をした方がいいと思うことは、四つあります。まず一つ目に野菜作りのことです1年生の頃から野菜作りの授業があって、いろんな野菜を作りました。5年生になると難しい野菜も作るようになってとても楽しかったです。いろいろ作ってなんかでも特に心に残っている野菜はきゅうりです。きゅうりは収穫してすぐに学校で食べました。先生が味噌を用意してくれてみんなで食べました。夏の暑い日に食べるシャキシャキでみずみずしい新鮮なきゅうりがすごくおいしくて、自分たちで作ったから、さらに美味しく感じました。

二つ目は音楽です。皆で音を合わせて一つの曲になったのが感動しました。誰1人欠けてもこの曲にはならないし、心を合わせることができたからです。最初は合わなかったり、誰かがミスしてしまったりしていたけれど、演奏するごとに一つの曲になってきて楽しいと思いました。みんなや先生と一緒に一生懸命頑張って練習したこと、音楽会に発表したことで、このみんなだからできた音楽なんだと感じることができました。三つめはプールでの水泳学習です。今まで泳げなかった長い距離が泳げるようになって嬉しかったです。四つ目は家庭科です。1枚の布からいろんなものから作れてとても楽しかったからです。巾着袋やティッシュケース、エプロンなどを作りました。作っていたものが完成したときの達成感がすごかったです。自分の作ったものを生活の中で、家族や自分で使うのがとてもうれしかったです。そして最後に今、取り組んでいる総合学習での草木染です。小学校最後の年に何をやるかという話になって、担任の先生が草木染ってというのがありますと話してくれました。それで iPad でみんなで調べてやってみよう、面白そうじゃないとなって、草木染をやることになりました。染める材料となったのは、ひめじゅあん、よもぎ、カラスノエンドウ、ビワの葉などです。身近な草木で真っ白だった布に色がついて面白いと感じました。また、染める材料によって色がそれぞれ違うので、そこも面白いと感じました。今回はこの草木染もそうだったんですが、私の担任の先生が自分たちに考えさせてくれることが多いです。先生からあれやりなさい。こうしなさいということではなくて、自分たちで考えてみたり、話し合ったり、見たりすることのほうが楽しいし、やりがいを感じます。なので、子供たちが自分から進んでできる楽しいなと思える授業をしてほしいと思いました。あと、田んぼや畑のことで。時がたつにつれて田んぼや畑がなくなってきていると思うので、そういった環境を残してほしいです。去年はコロナウイルスの影響で田植え体験ができませんでした。けれど私は今年、家の田んぼで田植えを体験することがあってきましたが、裸足で田んぼに入ると、土の中は暖かくて、泥水などにふわふわしていて気持ち良かったです。みんなと一緒に学校でやりたかったなと思いました。腰がすごく痛くなって、昔の人はこんなに大変な思いをして、お米を作っていたんだなと思いました。

それといじめのことです。学校は楽しく遊んだり学んだりするところなのに、いじめが原因で不登校になってしまうというケースを聞いたことがあるし、いじめがあると楽しく遊んだり学んだりすることができなくなって悲しいと思うからです。少しずつでいいのでいじめをなくしてほしいと思いました。

(伏木先生)

はい。ありがとうございます。

とてもいろんな観点からお話ししてもらって、興味津々なんだけど、宮崎委員からちょっとお尋ねしてみてください。

(宮崎委員)

二人ともありがとうございました。

なんか僕はもう大学3年生なんですけれども小学校時代のことがちょっとふわっと頭をよぎってやって懐かしく感じました。

ちょっとね2人に質問をしたいと思います。まずB君にちょっとお尋ねをしたいんですけれども、いろんな学校とほかの学校の方と交流をしたいっていうことなんですけど具体的にこうやってみたいこととか、何かお友達と一緒に遊んだりとかしてみたいことって具体的にありますか。

(B君)

映像を使って、自分たちが知っている英単語を使って、相手に、他の学校の人たちにとか説明できるように交流をしていきたいと思います。

(宮崎委員)

ありがとうございます。いやびっくりしました。英語が出てくるとは思わなかったです。いいですねそれで自分の知らないことを、例えばもう学んでる感じも違う場所も違う人たちと一緒に遊ぶ、学ぶっていうのが、いろんな大きい勉強になるんじゃないかなと思いました。では次にAさんにとりあえずトークの感想でもあれですけど、なんかやっぱり田んぼの件もそうだし草木染の件もそう、野菜もそうなんですけど地域、須坂と一緒に学んでいくということが印象的でした。やっぱり何か教科書に書いてあることだけじゃなくて地域とともに学ぶ、須坂だからできることみたいな、そんな学びもあったと思うんですけど、実際こう多分どちらも勉強にはなると思うんですけど、今後も例えば須坂のこういった環境を大事にしたいとか、なんかそういう思いって感じましたか。

(Aさん)

須坂でしか体験できないことやここでもしか体験できないことがあると思うので、そういう体験できる環境を残して欲しいと思いました。

(宮崎委員)

ありがとうございます。

(伏木先生)

ありがとうございました。

B小学校の6年生でした。

では次に、中学生にお話を伺ってみたいと思います。

4人来てもらっているので、4人続けてお話をしてもらった後に、私達の方からご質問させていただきたいと思います。それでは中学生トップバッターはA中学校の3年生、Eさんからお願いします。

(Eさん)

私が望む授業 今年度支給されたパソコンやタブレットを使ったクラス全体で意見を共有し、考えを深められる授業です。

今までの授業では、特定の決まった人の挙手をするようになっていたり、決まった人だけが意見を発表するような場が増えてしまっていました。

その原因の一つとしては、意見を自分から手を挙げて言えない人や、みんなの前に立つと、緊張してしまって、なかなか自分から話せないという子が多いというのがあると思います。そこでパソコンを利用して文字を使って打つことで、みんなと簡単に意見を共有することができ、あまり緊張することがなく、意見を共有することができると思います。

あとパソコンを使って意見を共有することで全員の意見が一気に集まり、効率よく授業進められることができると思います。

また全員と意見を共有することで、自分の考えがさらによく深まり、さらにクラス全体で一つの議論について深く考えていくことができると思います。

こういった授業をたくさん増やしてもっと自分の考えが深まるような授業を行っていてほしいと思います。

(伏木先生)

はいありがとうございます。

A中はもう始まっているのかな。タブレットを使ってみんなの意見がみんなで見られるような授業が始まって、どのくらいたっているのかな。

(Eさん)

本当にまだ一部しかないですね。

総合とか道德の授業でしかまだそういうのを行っていないので、各教科の授業でもそういうのを取り入れてほしいなと思います。

(伏木先生)

ありがとうまた後でご質問させてください。

では、続きましてB中学校の3年Fさんお願いします。

(Fさん)

B中学校のFです。

私は班やグループ、ペアになって意見を出し合えばとか、授業の中にたくさんあったらいいなと、思っています。理由は自分が持っていなかった意見を友達が持っていたときに、そういう意見もあるのかと。自分の考えが広まったり深まったりするからです。

私は数学の授業のときに、友達と考える時間があるんですけど、その時は自分がわからなかった問題を友達が教えてくれたり、また友達がわからないところを自分が教えてあげたりして、友達同士で理解し合えることができるからです。

また、私は授業も楽しむ事も学習していく中で大切なことだと思っています。

真剣に集中して授業を受けながらも、楽しんで学習していけたらいいと思います。

(伏木先生)

はい、ありがとう。

またあとで質問させていただきます。

ありがとう。

では続きましてC中学校3年生のGくんお願いします。

(Gくん)

ぼくの受けたい授業はみんなで話し合って考える授業です。

友達同士で話し合うと、どこがわからないかっていうところを共有して、友達で教え合ったり、勉強することができるので、そういう意味では先生よりも友達の方が学ぶことが多いように感じるときもあります。

またパソコンとかタブレットとかで友達と調べて、学んだりする授業も最近増えてきていると感じますが、どちらかという教科書からまだ学ぶことがあるのに、パソコンを先に使っている授業があると思うので、やっぱり学ぶことを学んだうえで、そこからさらに教科書にもないことを、自分で深めていけるような授業の方が段階を踏んで、わかりやすくなっていけると思うので、パソコンとかインターネットの中でも、本当ではない情報もまぎれていると思うので、段階を踏むことで、そういったことで、今後の情報を得られる力もついてくると思うので、段階を踏んだ授業を受けたいです。

(伏木先生)

はい、ありがとう。しっかりしてるねえ。学校の先生たちと対談やっているみたいだよ。どうもありがとう。後でまた質問させていただきます。
では、D中学校3年生のHくんお願いします。

(Hくん)

僕はこれからの授業ではノート教科書を使わず、インターネットやクラウドを有効活用したいと考えています。まずインターネットを使った授業にはどんなメリットがあるのか考えると、インターネットは最新の情報や知りたい情報が簡単に手に入り、それをもとに様々なことを考えることができます。これにより、これまでの辞書や本を使って調べていったときよりも素早く手軽に情報収集が可能となります。これは大人の方々も同じではないでしょうか。辞書や本も良さはもちろんありますが、何かを調べるときに、大人の方々もインターネットを検索しているはずですよ。

次に、クラウド現在使っているよさは何か。それは作業の効率化と共有につながっていると思いました。例えば授業で使うプリント Google Classroomを利用して共有したり、班で考えたことを、共同編集でまとめたりすることが多くなりました。とても効率的になっていると思います。このような授業が増えていけば、いずれはもっと教科書を使わない授業も実現すると思いました。

次に、僕がこのような授業を望んでいる理由は三つあります。
一つ目は単純に授業で使うものが多すぎることです。ただでさえ本や教科書、ノートが多く感じていたのに、そこにパソコンが加わったことで、机のものが多く気になってしまいます。

二つ目は先ほども述べたように、インターネット上なら、気軽に意見交換ができると考えたからです。チャット形式で、発言するのが苦手な人でも、少しは自分の考えを伝え、お互いに共有できるのかなと思います。

三つ目はパソコンを使うと図やグラフを用いる際にとっても便利だからです。図やグラフだけでなく、表をまとめるにも便利です。

このような理由で僕はノート教科書を使わず、インターネットやクラウドを有効活用した事業を受けたいと考えています。ですがこのような授業にもデメリットがあります。例えば授業中に関係のないことをインターネット上でする人もいると思います。また精密機械なので水や衝撃に弱いこともデメリットです。このようにパソコンを使う僕たちのマナーや使い方にも課題がある中で、今後どのように学校や家庭で有効活用ができるか、生徒自らが考えていかなければならないと思いました。

(伏木先生)

はい、ありがとうございます。4人の中学生からそれぞれ意見いただきましたけど、まず最初に私の方から質問させていただき、次に宮崎さんからお願いします。

まずね、先生から黒板やチョークをね、そういうものを使いながら丁寧に教えてもらうという、そういう授業よりも何か生徒同士で学び合うというか話し合ったり、そういうことの方が、なんかよく理解できるって書いてくれてる人もいるし、そういうほうが活気があって、ことが書かれていたりする人もいるんだけど、先生たちとしては、正しくきちんと、まずは教えたいっていう先生がおそらく多いのかなあと思うんだよね。だけどどうだろう。皆からしたら、その教科書に書いてあることを先生がもっと詳しく丁寧に教えてくれるそういう上で、友達同士でディスカッションしたりするっていうのが良いと考える人と、いやいや、もう初めの段階から途中からでも、やっぱり先生から話を聞くという受身じゃなくて、生徒同士で学び合いながら追求しあいながら、一緒に学んでいく方が頭に入るし、その方が楽しく学べるんだっていう方なのか、もし二つぐらいに分けるとしたら、どっちの方が近いですかという質問。

伝わったかな。どうでしょう、どなたからでも結構です。

(Gくん)

僕はどちらかというと、先生にまず教えてもらってから自分たちで話し合っって考える授業のほうがいいと思います。

その理由なんですけども、やっぱり何もない状態で話し合うことになる、自分たちで話し合いの材料を見つけなきゃいけなかったり、その時間だったり、そこで困ってしまうところがあると思うので、先生から材料をもらって、そこから自分たちで発展させていく方が、話し合いにも繋がると思うので、先生から教えてもらった方がいいと思います。

(伏木先生)

はい。ありがとう。ほかの方どうでしょうか。はい、どうぞ。

(Fさん)

私は先生から教えてもらった上で、またわからないことがあったときに、友達同士で教えあうのが一番理解できるやり方なんじゃないかなと私は思っています。

(伏木先生)

ありがとうございます。はい。どうぞ

(Eさん)

2人の意見と反対になっちゃうんですけど、私はみんなで話し合って考えを深めながら学習していく方が大事だなと思います。なぜならを教える人の方も考えが深まって、さらに自分の学習をさらに深めていくことができると思うし、教えてもらう側も、先生に教えてもらったときはわからなかったことが、生徒に教えてもらうとわかりやすく伝わったりすることもあると思うので、生徒同士で伝えていく学習をもっと増やしてほしいなと思います。

(伏木先生)

なるほど。ありがとうございます。続けてどうぞ。

(Hくん)

自分はまず先生に教えてもらってから、その自分が興味を持ったところについてピンポイントで、パソコンを使ってスライドとかにまとめて、みんなの前で共有するっていうのが、D中でもやってることなんですけど、そういう授業が大切だと思います。理由は、自分が興味のある持った分野に集中してスライドとかにまとめると、より理解が深まると思うし、み

んなの前で発表することによって、それぞれの人たちが思った自分の興味を持ったことについて、その聞いている人たちも学べると思うのでそういう授業が大切だと思います。

(伏木先生)

はいありがとう。今日集まってくれている4人の皆さんは、おそらく授業中に先生が解説してくれたことがほとんどが、「ああなるほど」とわかるタイプの、多分、立派な優秀な生徒さんなんだろうと思いますね。私が毎週いろんな学校で見ると、先生が説明していることがわかったかもしれない。ちょっと今ひとつわからないっていう子も教室にはたくさんいて、そういう子たちは一体どういう進め方の方がいいのかなって見ながら悩んでいる大学の研究者なんですけど、もしかしたらわかり方って人がそれぞれ違うかも知れない。人から聞いてわからないタイプの人、自分なりの時間が与えられて、自分たちの進め方の方がわかりやすい人もいるかもしれない。なんてちょっと思っていました。

みんなもこれからね、クラス全体の中でどういうふうにしたら先生と生徒が共にね、わかりやすい、やりがいのある授業になるのか、またこれからも教えて欲しいと思うんだけど、もう一つ質問いいですかね。

皆さん共通して出てくるのは新しい時代に入って ICTの 機器を使って、中にね、Google classroomを使うとか、クラウドを使って情報共有するなんていうところまで書いてくれてね。D中なんかはずいぶん進んでいますよね。そこで先生たちの多くが、あるいは教育委員会の皆さんが心配するのが、子供たちがインターネットに繋がってるときに、その勉強と関係ないことを見るんじゃないかと。家に持ち帰って家でも学校でも同じ端末を使うと、全然関係ないなんか芸能界の話とかゲームとか、そういうことをやり始めて集中しないんじゃないかと思って、あの自由に家に持ち帰ることについて「ちょっと待って」という大人も少なくないっていうね。文部科学省としては、家でも学校でも使えるようにっていうふうに言っているんだけど、そこら辺がまだ日本では大半の学校ではどうしようかと迷っているところなんだけど、皆さんはどうなんですか。自由にそこは生徒に任せた方がいいと思うか、何らかの縛りというかルールを学校で決めちゃった方がいいのか、または別の考え方があるのかこの辺のICT機器、クラウドを使う、こういう時代になったときに、皆さん中学生の立場では何かどんなふうにアイデアがありますか。私達大人は未経験のそういう学習だったので、ちょっとあの発想が古いので、ぜひ教えてほしいなと思うんだけど、どうでしょうか？アイデアのある人。

(Eさん)

私達の学校、A中学校では、夏休みとか週末とかはパソコンを家に持って帰って、家でeライブラリーを使って学習したりしているんですけど、私達の学校がギガ委員といって、それぞれパソコンが得意な人たちをクラスから数人集めて、その人たちがクラスのパソコンを管理したり、まとめたりしていることを行っています。

また、パソコンの方にフィルターがかかっていて検索できないこととかも増えていて、勉強学習に関係ないことはあまり調べられないようになっているので、週末パソコンを持って帰ったりしても、多分そういうなんて言うんですかゲームとか、芸能関係に使うことは減っているのかなって思います。

(伏木先生)

続いてどうでしょう

(Fさん)

B中学校でも授業に一部、学習に関係ないことは調べられないようになっているので、その授業とか授業中とか、学習に関係することだけで使っています。

(伏木先生)

はい続けて、

(Gくん)

ルールに縛るか、自由に使うかという判断になると、どちらかというと半分どっちでもあるような感じになるんですけど、C中学校でもフィルターってかけられていて、勉強に関係ないことは調べられないんですけど、夏休みで自分で好きなものをまとめて発表するっていう授業があるんですけど、そういうときにもやっぱり自分の好きなものを自分の習っている部活だったりスポーツだったり、そういうのを調べられないっていうのだと、やっぱり自由研究ですけどやる意味がなくなってしまうので、自由に使える時間を確保しつつ、フィルターをかけて余計な時間には調べられないようにするっていう方向で進めていった方が、余計なことを調べないけど、大切に自分で調べていく意欲は、なくさないまま授業を進めていけるんじゃないかなっていうふうに感じました。

はい。ありがとうございます。

(Hくん)

D中学校でも、この夏休みはパソコン持って帰れるようになったんですけど、その夏休みを持って帰るにあたって、その1週間ぐらい前から、フィルターがかかって、結構その生徒たちから、何かそういうことができなくなったという声を聴くので、そういうことに関しては大丈夫だと思います。

(伏木先生)

はい。ありがとうございます。宮崎さん

(宮崎委員)

ちょっと皆さんのお話を聞いて思ったところがありまして、実はちょっと僕も高校生の頃にそういう自由とそれからルールをつけて、みんなでそれを守っていく方向とどっちがいいんだろうって考えたときは、あったんですよ。やっぱり皆さんもこれで高校生になると今度はスマホをね、皆さんもうもっていたらあれなんですけど、ここで例えばスマホを持ったりすると本当にフィルターとか自分で管理するようなね、そんなことにもなるかと思うんですけどやっぱり中学生の頃からそういう ICT っていう、そういう使い方のルールってものはある程度知る、その内容を知るっていうのはすごいやっぱり使い方を学ぶっていう点では、入り口になってくるのかなって思いますが、すごいですね、皆さんすごい学びをしてるってのはちょっと自分のときには考えられなかったのでびっくりしますが聞いてて、はい。

ちょっとそれに関連してなんですけど、ちょっと僕もそのスマホとかね、PC かタブレットを使って学びってのはよくわかってないので聞くのは恐縮なんですけどみんながそれを使ってやってみて、こういうその評価によって差もあると思うんですよ。こういうふうにして使ったらこの教科はすごく面白いなと感じたし、でもまだもう1個ちょっと物足りなくなっていることもあるかと思いますが、皆さんの中で、タブレットとかこういうパソコンとすごく仲の良い相性の良い評価で、まだまだちょっと厳しいなと思う評価、その教科ごとにちょっとそういったエピソードがあれば伺ってみたいなと思っています。ある方からで大丈夫なのでよろしくお願いします。

(Hくん)

自分が特に相性がいいと思った教科は社会ですね。歴史で具体例を挙げますと、アヘン戦争のときとか三角貿易とかちょっとがあったんですけど、それをスライドにまとめてやったりしてみると、結構図とか簡単に挿入できたりするっていう、簡単にわかりやすくまとめられることができるとおもいました。

(Gくん)

僕も同じなんですけど、社会がやっぱり相性がいいと思ってて、社会は教科書の中だと、教科書の中で完結しないので、調べることがたくさんあるんですけど、相性がよくない教科とかは、数学とかって、それは教科書に載っていることが全てだとおもうので調べても、それ以上は出てこないと思うので、社会は完結しないので、そういう完結しない教科が相性がいいと思います。

(Fさん)

私のクラスでは英語の授業で、長文読解をするときに、英文から読み取ったことを1人ずつのタブレットに書き込んで、それをスクリーンに映して全体で見れるっていう感じになっていて、それはすごく自分がわからなかったところを友達を読み取っていたりとかするので、そこはいいなと思います。数学とか私のクラスでは、数学、社会、理科は全くタブレットを使っていないです。

(Eさん)

社会は、前の3人も言ってくれたように、確かに調べるところとかでたくさん使っていけると思うんですけど、数学、特定の単元になってしまうんですけども、図形の単元とかになると、書いたりするときもそうだし、比べたりするときもそうだし、そういうアプリを使って、学習をさらに深めていくことができるという点では、パソコン使っていくことで数学も高めていけると思います。

(宮崎委員)

皆さん本当にありがとうございました。完結しない社会のレベルでいろいろやっぱり知識を求められるという点で同じだなと思いますし、やはり数学のところ、やっぱり自分で図形を一から書いていくというのはすごく大変だと思うんですけどそれをアプリというものを介

してそれをね、自分たちで学びに繋げられるもの、道具を、新たに手に入れられるとより良いのかなってというのが、僕もすごく感じるところがありました。英語の件についてもやっぱり共有をしていくってところは、こういう機械ならではのところで簡単にできるし発言も声に出さなくてもできるってところで皆さん書いてあったと思うんですけど、やっぱり使い方次第でどんどん広がってくる世界なのかなと思いました。

皆さんこれからいろんな使い方を模索してってください。ありがとうございました。

(伏木先生)

ありがとうございました。小学生油断してたかな。今度は小学生に聞くね。まずA小のお二人に質問です。

B小の6年生がね、こんなこと書いているんです。私の担任の先生が自分たちに考えさせてくれることが多いです。先生たちから、先生からあれやりなさい、こうしなさいということではなくて、自分たちで考えてみたり、話し合ってみたりすることの方が楽しいし、やりがいを感じます。でもきっと他の先生はちゃんと子供たちに力をつけたいから、あれしなさい、次こうしなさい。的確に適切に使用したいって多分願ったんだと思う。

だけど、Aさんとしては、もうちょっと自分なりにさせてみんなで子供たち同士で話し合う、そういう方がやりがいを感じるっていうふうにする。

それからB君はこんな風に書いている。何か算数の授業とか国語の授業とかで、いつも同じパターンか、こういうやり方っていつも決まったようで、ワンパターン、これじゃつまらないと。違う言い方とか、いろんなやり方をやらせて欲しい。でも担任の先生は同じやり方だと子供たちが学びやすいんじゃないか。安定して授業を受けられるんじゃないかって願ってたかもしれないね。そこでA小のお二人に質問です。

先生からパターンが全部教えられていて、授業はもう最初の部分ぐらいでこうなって、その次10分ぐらいでこうなって、途中で何かみんなで話す時間があって、再度振り返りシートを書いてみたいなんかいっつも同じパターンの授業やった方が落ち着いて授業が受けやすいですっていうふうにするか、毎回毎回自分たちが考えなきゃいけない、自分なりのペースで何か考えなきゃいけないっていう、そういうもしかしたらワクワクするかもしれないけど、もしかしたら毎回毎回違うことを考えなきゃいけない。そういうパターンの授業だとか、どちらの方が望みますか。もしかしたらどっちもいいのかもしれない。

どうだろう。お2人にぜひ聞きたいなと思っているんですけど、D君どうですか。

(D君)

僕は毎回違うほうがいいと思うんだけど、大人になったりするとなんか、毎回やることは同じだったりしないから、その時になんかちゃんとできなかつたりしちゃうようになるから、今から毎回違うようなことをやってた方がいいかなと思ってます。

(伏木先生)

なるほど。ありがとうございます。

Cさんどうですか。

(Cさん)

Dさんと一緒に、将来の時に仕事とかが変わってくることもあるし、それはできなくなっちゃうから、今ちゃんとやっておいた方がいいかなって思います。

(伏木先生)

ありがとう。4年生でこういう風に感想を考えてるってびっくりしましたね。

さあ6年生のC小のお2人、今4年生がこんなふうに言ってもらったけど、改めてどうでしょう。同じ質問です。

(Aさん)

毎回同じパターンの授業だと疲れてきちゃって、面倒くさいというかあんまり楽しくない授業になってしまうけど、自分で考えると、楽しくなるのかなと思います。でも毎回違うことを考えると、疲れてきちゃう、それも疲れちゃうので、半分半分で組み合わせしながらやっていったらいいのかなと思います。

(伏木先生)

なるほど。ありがとう。B君お願いします。

(B君)

自分たちで考えていくのも、たまには自分たちで考えたりして、大体の時は先生たちに、その先生たちに教えてもらったり、した方がいいのかなと思います。

(伏木先生)

はい、ありがとう。今度は中学生に質問させてもらっていいかな。この会場にいる大人は、おそらく皆ね、須坂市内の中学校で学んで卒業していった子たちが、ずっとこの須坂のことをね、大事にしてもらって、将来どんなところに住んでどんな仕事をやるとしても、ずっとこの須坂市のことを思いだしてっていうかね、大事に考える子たちとして育ててもらいたいなって願っている。だけど、その中学生の皆さんが須坂市のことを本当に愛せるとかね、大事に思えるというふうになるためには、どんな授業、どんな活動とかそういうものが学校にあるとより、将来どこにするかわからないけど、何やってるかわかんないけど、一生この須坂で学んだことを大事にできるって思いますか。

中学生の今思うことを教えてください。

(Eさん)

個人的な話になっちゃうんですけど、私は大人になったらな、この須坂を出て行きたいと思っていて、まだ須坂のことを知らないこともたくさんあって、くだものが有名かなってぐらいしか知らないんですよ。だから本当小さい小学生の頃から須坂のことをちゃんと須坂の魅力を伝えていってくれるような学習を週に1回とか、増やしていくようにすれば、須坂にいたいなって思うかなって思います。

(伏木先生)

もっと小さいころから須坂のことをこうもっとこまめに学んでることがあるとより須坂のことを大事に思えるんじゃないかっていうことかな。それほど多くなかったってことかな。

(Eさん)

多くなかったわけじゃないんですけど、なんかそこまで何か魅力に感じられるような授業じゃなかったっていうか。

(伏木先生)

ちょっと言いにくいかもしれないけど、はいありがとう。続けていかがですか。

(Fさん)

大事にする、大事に思えるには、まずその町須坂のことを知る、よく知ることが大切だと思って、そうすれば大事に思えると思うので、学校で何かみんなで自分の町とか、住んでいるところについて、たくさん知る、学ぶような時間があつたらいいなと思っています。

(Gくん)

僕も知ることが大切だと思っていて、そこからさらに体験してったりすることで、思い出を作って、この須坂っていう地に自分の記憶とかを絡めていけると、あのときあそこでああしたなとか、そこがやっぱり大事にできる一つの原因でもあると思うので、思い出を作ったりしてるっていうところが、大事なところになってくるんじゃないかなと思います。

(Hくん)

自分もやっぱり知ることが大切だと思います。それは須坂のいいところとか知った上で、須坂になんか、例えば出ていく人とかがいたら須坂に何か残せていければなみたいな感じで、地元を大切にできるかなと思いました。例えば、須坂がいいところをとった像とか、例えばの話になっちゃうんですけど残していければ、また帰ってきた時にここでこんなことしたなとか、さっきも言ってくれてたと思うんですけど思い出になるかなと。

(伏木先生)

はいありがとうございます。なかなかね、中学生は外に行く機会っていうのが限られてると思うんだけど、須坂のことを知るっていうのは、何をどう知ることなのかね、また一緒に考えていきたいなと思うんですね、私もねこの日曜日に、私は栃木県栃木市っていうところで子供時代を過ごしたんだけど、そのときに農作業を近所で見えてくれたおじちゃんとかね。祭りに一緒に法被着と一緒に活動したお兄さんとかね。そういう人たち、どっちかっていうと何か魅力ある村だったとは思えないんだけど、食べ物も有名だったとは思えないんだけど、なんか人のことがすごく印象に残ってて、で日曜日にそんなあの先輩たちと一緒にゴルフやってきたんだけどね。いいな昔の事を思い出しながらやったんだけど、たくさん魅力ある町です須坂市は。私からすると。だけどその魅力とともに、誰かが決定的にあなたたちの生き方に影響を与える誰かがね、きっとこの街にたくさんチャンスがあつて、それ出会ってほしいなって個人的には思ってます。これからも須坂すきになってもらいたいなと思います。宮崎さんから何かありますか。

(宮崎委員)

なんかその辺は本当に皆さんの何かそういうふういろんな方から言われて、今まで来て
るんですけど、なかなかやっぱりこう須坂の良さに気付くってちょっとその身近にいるとね
中にいると意外と気づかないところってあるかなって思うんですけど。そうですね僕自身は
その高校時代になって、須坂の歴史のほうをちょっとかじるというか調べるようにねなんか
興味本位でやったら、やっぱり須坂独特のね、風土というか、いろんな面白さというものに
気づいたんですけど、皆さんやっぱりね例えば好きな教科とか、歴史以外にもいろんな切り
口、あると思うんですけど、現段階で何か須坂の良いところだったり、須坂のこういう人が
いるよ、ちょっと自慢の人がいるよとか何か気づきみたいなもの、何でもいいですちょっと
これ本当に気楽に考えて欲しいんですけど、なんかこう、今友達に須坂を自慢するとし
たら、こういうところがあるよっていうのをちょっと中学生の皆さん、小学生の皆さんもぜひ
聞いてみたいんですけど、あれば教えていただけたら嬉しいです。

(伏木先生)

はい、ある人から聞いていきましょう。どうでしょう。自慢じゃなくてもいいよね。
なんか、なんか良かったなって思う。この地域でね。どうでしょう。

(Hくん)

やっぱ都会じゃないところならではのかもしれないんですけど、登校してるときとかに、近
所の方に自分は率先して挨拶するようにしてるんですけど、返してくれるんですよ。長野と
かに行ったらなんかその街の人と挨拶しづらっていうところがあるんで、やっぱ挨拶返し
てくれるとなんか嬉しい感じがします。

(Eさん)

私はD小学校出身なんですけども、すぐ近くに臥竜山があって、もう週1回、毎日のよう
に臥竜山に上ってて、それで四季折々のなんていうか、そういう紅葉とか、夏だったらもの
すごい綺麗な緑とか、それが見れたのはすごいいい経験だったなって今思います。

(伏木先生)

では、ちょうど時間になりましたので、ここで最初の私達との対談でしょうかね。
この時間はここで終わりにしたいんですけど、原風景って言葉があるんですね。

原っぱの原っていう字に風景ってかくけど、何か大事なときに目をつぶったときに、目に焼き付いている自分の中の心の中にある大事な風景。そういうものは私達の生きていく中で、とても支えになったり、ほっとしたり、そんな風景なんだけど、多くの場合子供時代、その原風景ってのが作られるのね、ぜひ、小中学生の間に素敵な原風景を須坂市で作ってってもらいたいな。そこにはきっとね人がいるんじゃないかなと思います。誰かと外を訪ねた。誰かと会話をしたあの言葉の中に、後ろ側にあんな夕焼けがあったとかね。そんな人と出会いながら、この須坂市に思い出を作ってもらいたいなって思ってます。

今日はどうもありがとう。

ここでこの部は終了したいと思います事務局、お願いします。

（中村課長）

はい。ありがとうございます。

それではですね、この後は委員さんの方から小中学生にいくつか質問させていただきたいと思います。委員の皆さんですねちょっと席の方をこちらに移っていただきたいと思います。

（伏木先生）

それでは今からですね、15分間という時間をいただいておりますので、委員の皆さんからね、私達は須坂市内のね、学校の教育を良くしたいというそのために集められたメンバーです。それでどうしてもみんなの子供の生の声を聞きたいということでこの会があります。

気にせずに本当の気持ちを言っちゃっていいですか。

よろしくお願いしますでは委員の皆さんからどうぞご質問なんかで挙手をお願いします。

（垂澤委員）

はい双葉幼稚園の垂澤と申しますよろしくお願いします。皆さん本当に自分の考えがあって、あの今日発表だけど、すごくあのびっくりして、すごいなって本当改めて思いました。自分の子供の頃にこんなに自分の考えが言えなかっていうのを改めて思いださせました。中学生の皆さんにお聞きしたいんですけれど、先ほどパソコンの ICT の方、いわゆる悪影響についてっていうなことでお話あったかと思うんですけど、私は本当に頭の古い人間なんで

あれなんですけど、ICTが持つその子供の体への悪影響、例えば目への悪影響とか、そのあたりについて中学生の皆さんの考えを聞かせください。お願いします。

（伏木先生）

続けて質問のある方どうぞ。

（本多委員）

須坂高校の本多といいます。今日はありがとうございました。私は小学校、中学の時には本多のくせに本読まないによく先生に怒られていましたけれど、皆さん立派だなあと思いました。ところで、率直な意見を聞かせてもらいたいんですが、PCとかタブレットが学校の中で役割を発揮していることがよくわかりました。ところで、先生って必要なのかな、学校って必要なのかなっていうのを、皆さんの中でどういう風になっているのかなっていうのを聞いてみたいのと、君たちにとって、先生って必要なのかな。あるいは先生が必要だとすれば何してほしい。あるいは学校で必要なの。学校が必要だとすれば、学校はどんなところであってほしいかっていうのを、聞かせていただきたいなと思います。

（伏木先生）

はい。続けて。勝山委員。

（勝山委員）

今日はありがとうございました。とても良い話が聞けて嬉しかったです。皆さんにちょっとお聞きしたいんですけども、先ほどの質問とちょっと繋がるんですけど、さっき自分たちで小学校の皆さんも中学生の皆さんも自分たちでいろいろ調べていく。学んでいきたいと、いろいろ意見を言っていました。そういうときに学校の先生に何をしてもらいたいか。自分たちでももちろん一人歩きで、自力でやる中もあるんでしょうけど、もしその場合に、担任の先生とか、教科の先生がいたら、その先生たちにどうして欲しいか。あったら聞かせていただきたいなと思います。

（伏木先生）

はい。続けて。委員の皆さんご質問ありますか。よろしいですか。
ではここで一旦、子供たち答えに行きたいと思うんですけど。

面白いね。質問の中身が。まずとりあえずA小のお二人からちょっと聞いていいかな。学校って必要。学校があったほうがいい？ それから先生には何してもらいたい。学校とか先生ってどうなんだろう。4年生からしたらどう思うのか。その次にB小の2人に同じことを聞きたいと思います。はい、お二人よろしくお願いします。

(Cさん)

学校はあった方がいいと思います。訳は、友達とも一緒に勉強できたりするし、生活するときて、それも授業じゃないけどまなべるから、学校はあった方がいいと思います。

(伏木先生)

先生はどうですか。

(Cさん)

先生もいた方がいいと思います。

(伏木先生)

なんで先生がいた方がいいかな。

説明しにくいかな。はい、ありがとう。

(D君)

先生はいた方がいいと思います。

自分で勉強を進めることはできるけど、わからないものがあったら先生にヒントをもらったりできるから。

(伏木先生)

なるほどね。いた方がいい。

それは教えてくれるというより、わからないところがあったら相談してもらえると。

なるほど。じゃマイクをとなりに。

(Aさん)

先生はいた方がいいし学校もあったほうがいいと思います。

先生がいた方がいい理由は、わからないところだったら、一緒になっちゃうんですけど、教えてほしいからです。学校があったほうがいいと思うのは、友達とかいろんな人と関わり合えるし、オンライン授業はいいと思うんだけど友達と会えたり関われないから、そういうのも大切だと思います。

(Bくん)

学校はあった方がいいと思います。理由は、将来、もし何もその知識がなかったら、自分たちで何も発展とかができなくなってしまうからです。

先生は必要だと思います。なぜなら自分たちで1から考えるというよりは、まず土台というか、その基礎ちゃんと習得した上で、勉強とかをしていった方が、効率よく学べると思います。

(伏木先生)

はいありがとうございますじゃ中学生の番になりました。

いや率直な意見を聞きたいですよ、先生にしてもらいたいこと。必要だとすればですね。どういふことかってあたりを中心に、もしかしたらこういう時代になって Google classroomなんか使ったら別に学校なくなつて、家で繋がり合えるし、一緒に学べるんだからいらないんじゃないっていう意見もあるのかもしれないけど、さあどうでしょうか？率直なところを教えてください。

(Eさん)

私も小学生の皆と同じように先生も学校も必要になって思います。先生や学校がない環境が今まで考えられなかったっていうのもあると思います。先生が学校がない環境っていうのも今までなかったので、考えられないし想像もできないし、なんとも言えないんですけど、先生がいることで、やっぱり生徒たち同士で話し合つてどうしてもわからないことってやっぱり出てきちゃうと思うんで、そこも大事だと思うし、あと学校に行くことによって、社会に出ているいろんな人に会うと思うんですけど、教室内でも自分でもちょっと苦手だなと思う人もいると思うんですけど、そういう人たちと共存して生活していくことで、自分も何か一つ成長できるというか、学校に行くことで、またさらに成長していくことができる点では、やっぱり学校と先生と両方必要だなと思います。

(Fさん)

私が学校は人間関係だったり、勉強でも本当にいろいろなことが学べるし、学び方が学べるので、学校は、あってほしいなと思います。先生も自分がわからないこととかもう本当にすごい教えてくださるし、先生が今まで生きてきたことの話もいろいろ聞いたりして自分のこれからの生きていく中で、大切にしていきたいことが参考になるので先生はいてほしいなと思います

(伏木先生)

ということは、教科書に書いてある知識のようなことを黒板を使ってただ解説するだけの人は別にいらなくとも、人間関係がいろいろ授業を通して生徒同士学べて、しかもその先生の何か人となりが今までの過去の経験も含めて出てくるから、先生が欲しいと、そういうことなんですね。

(Gくん)

僕も先生も学校も必要だと思ってて、学校のある意味っていうのは学ぶ場というのとあとコミュニケーションの場だと思うので、学ぶ場というのは今、ICTとかで少し薄れてきたり、パソコンとかでも学べることはあると思うんですけど、やっぱりコミュニケーションの場としては、横との繋がりだったり縦の繋がりだったり、学校でしか学べないことっていうのがあると思うので、やっぱり学校をちょっとなくしてしまうと、コミュニケーションの力がなくなってしまうと思うので必要だと思います。

(Hくん)

自分も学校と先生はやっぱり必要だと思います。学校が必要な理由というのは学力を高めていく上でやっぱり競争というのにも必要だと思うんです。テストとかで、友達と点とか比べあったり、自分もうちょっと頑張らなきゃなって思う一つのきっかけになったりとかすると思うんです。あと先生が必要だと思うのはやっぱり、勉強の内容を築いてくれるっていうのも大切なんですけど、やっぱり生き方も学ばせてくれる、そういう点においてはやっぱり先生も必要かなと思いました。

(伏木先生)

恐れ入りました。須坂市の中学校の先生たちは生き方をねいろいろと語ってくださってるんですね。ありがとうございます。先ほどの質問の最初にあったね、健康上の問題、ICT機器をいろいろ使ったり、ちょっとここはスマートフォンを置いて、タブレットだとか最近入ってきた機器について、健康上の問題とかね、いろんな問題そこについて何か心配したり、意見のある中学生あったらどうぞ。どうでしょうか？

(Eさん)

このパソコンが入ってきてからかどうかはわかんないんですけど、確かに私も視力はだんだん低下してきて、確かにそういうなんていうブルーライトとか、目に悪い影響を与えているのは確かだと思うので、そういうところも何かうまく考えて、これから学習できるような環境がもっと欲しいなと思います。

(Fさん)

私も実際目が悪くて、それはやっぱりゲーム機器だったり、そういうのもあるし、パソコンとか本当にいろいろなので、目に悪いと思っていて、またそれを使うことで睡眠時間が削られたりとかそういう話を聞いているので、やっぱりそういうルールを大事にして、使っていきたいなと思っています。

(Gくん)

僕もパソコンとかを使って寝不足になるっていうのが結構怖いというか、大事というか、結構悪影響にもなってくると思うので、自分で自分をコントロールするっていう力が大切になってくるんじゃないかなっていうのは、すごい感じてます。

(Hくん)

体への悪影響ということが、自分はまあそんなことはないんですけど、やっぱり目が悪くなった人がいるということで、やっぱり暗いところではそういうのはやらないとか、あとはフィルム張ったりして何%カットできるとか、対策とかもしっかり必要だなと思いました。

(伏木先生)

ありがとう。時間になりましたけれど、委員の皆さんどうしてもこれだけっていうご質問ありましたら、挙手をお願いします。よろしいでしょうか？ どうぞ。

（坂口委員）

今日はありがとうございました。一緒に皆さんたくさん私も学ばせていただきました。私は保育園に努めているので、学校っていうところがわからないんですけど、皆さんに聞きたいことがたくさんあって、どんな学校で、環境ですね、クラスの様子とか教室とか、今学校って同じ教室じゃないですか、全部どこに行っても。こんな学校があったらもっと勉強したいなって思う、夢でも想像でもいいんですけどあったら教えていただきたいと思います。それから、小学校から中学校、幼稚園や保育園から小学校にステップアップした時に、良かったなとか、ちょっと困ったことがあったなっていうことがあったら教えていただきたいなと思います。ちょっと観点ずれてたら先生、よろしくお願いします。

（伏木先生）

小学生の皆さんには、幼稚園保育園から小学校に上がったときに、ちょっと思い出してもらって、何かこういうことずれてるなとか困ったなとか、戸惑ったなっていうことがあったらご意見をください。中学生は小学校から中学校に移ったときに、なんかちょっとこれ戸惑ったなとか、なんでこんなに違っちゃうんだろうみたいな。困ったことがあったら教えてください。それからもう一つは、こんな学校あったら行きたいなっていう夢みたいなこんな学校の環境だったらよかったなって、なかなか考えにくいと思うけど、夢みたいなね、お金はいくらでもかかっても考えないでね。何かそんなものがあったら、大胆なアイデアがあったらお願いしますどうでしょう、まず小学生から。困ったことはあったかな。ちょっと昔の話。記憶にあるかな。1年生に入ったときとか。

中学生どうかな。小学校から中学校に移った時とか。

（Hくん）

やっぱ別の小学校から人もたくさん来るってことが、やっぱ一番困ったのがコミュニケーションです。自分から話しかけに行くのが何か怖いというか、若干、もう小学校別でグループ作られてるじゃんみたいな。そういうのがあったりして、結構自分から話しかけるのが怖かったんですけど、その学校の授業とかで何かその自己紹介とかいう時間がある中で、しっかり今は打ち解けて、楽しい学生生活が遅れていると思います。

(伏木先生)

小学生以降のうちから他の小学校となる交流があると難しい、気楽だったかな。
他の中学生どうですか。

(Eさん)

前に言ってくれた人と同じような感じになっちゃうんですけど、1年生のときってやっぱり小学校同士の塊って自然にできちゃう感じになっていて、小学校同士でまとまりできちゃうっていうのはしょうがないのかなって思います。私の学校の場合は自然体験学習が1年生のときにあって、そのときになんかやっと打ち解けられたなみたいな感じなんですけど。さっき言ってくれたように、もっとそれぞれの小学校と、交流を増やして欲しいなって思います。

(伏木先生)

はい、ありがとうございます。どうでしょう、小学生。保育園、幼稚園から上がったときに、こまったなんてことはないですか。 お願いします。

(Dくん)

保育園のときはクラスの教室が広がったから、小学校に来たときに狭くて何か緊張しちゃって、大声出したときに響いちゃって。

(Aさん)

困ったことっていうかちょっと離れたことっていうか逆なんですけど、保育園から小学校に上がると勉強するってことがあるので、でも一年生に上がったときは、最初は簡単な遊びみたいな勉強から始めてもらって、だんだん慣れていったので、そこがすごく慣れたかなと思うんで、逆に言うと小学校に上がってから急に何か1年生のレベルの勉強しようっていうような感じだと困っちゃうのかな難しいと思います。

(伏木先生)

繋がるようにね、徐々につて感じかな。じゃあちょっとだいたいこんな学校だったらっていうある人。イメージでいいです。世界にはね、いろんな学校があって、それで紹介する時間

がないんだけど、日本の学校はものすごくどこに行ってもだいたい同じような校舎で同じような作りになってる。どうでしょうか？

(Dくん)

理科の実験とかのときにものを使ったりしたり、そういう授業を増やしたり、なんか遊びながら勉強する。そういう学校がいい。

(伏木先生)

遊びながら勉強する。そういう場所になってほしい。
どうでしょう中学生。はいどうぞ。

(Eさん)

ただの要望になってしまって申し訳ないんですけど。夏休みをもう少し延ばしてほしいなって。なんかよく話に聞くんですけど、長野県とか須坂市、夏休み短いと聞くんですね。本当なのかなって思ったりもした。

(伏木先生)

はい、本当です。教育長いますからね。しっかり考えていただきましょう。
はい、時間過ぎてしまいました。世界ではね今13歳がオリンピックで金メダルを取るという時代になりました。今日のこの8人は須坂市の金メダリストです。どうぞこの8名の皆さんに拍手をお願いします。どうもありがとうございます。
お話を聞く会は一旦これで閉じたいと思います。お疲れ様でした。

(中村課長)

ありがとうございました。ここで休憩に入りたいと思います。小中学生の皆さんは荷物を持って、入口の方へ移動してください。ありがとうございました。

5 議事

(1) 委員による意見交換

中村課長：

それでは、11時になりましたので、これからですね、委員さん同士による意見交換をさせていただきたいと思います。進行の方は伏木先生お願いいたします。

伏木先生：

それでは後半よろしくお願いします。あらかじめ事務局から質問意見いただいてたことをすっかり忘れてました。十分に子ども達に質問できなかったかもしれませんが、ちょっとご容赦ください。子ども達に立派にいろいろ意見言ってもらってちょっとね。びっくりしましたけど。率直な声の一部を伺えたんじゃないかと思うんですけど、改めて感想も含めて、こんなことを気づかされたとか、こんなこと改めて思ってたということを、ぜひ委員の皆さんからいただきたいなあと思うんですけど、いかがでしょうか？

本多委員

とても貴重な時間を与えていただきましてありがとうございました。

小中学生がお話したことを、必ず本校職員会でも、先生がたに、生徒諸君に伝えたいというふうに思いました。なかで特に感じたのは小学生が将来いろんな人たちに自分たちが出会うので、他の学校と交流したい。いうこととか、中学生がコミュニケーションをしっかりとっていくのに、やっぱり他校との交流は大事だというような話をするにつれてですね、やっぱり成長に応じた集団の大きさが大事だなと。小さいところにずっといるっていうのが、果たしてこういうあの大きな希望を持っている生徒たちに、児童生徒たちが、成長に応じた成長をするということが、やっぱりそれなりの集団の大きさというのが大事なんだって改めて感じました。これからの統廃合のことがあるんだけど、やっぱり今目の前にいるこの子たちのことをちゃんと考えて、我々は考え統廃合をちゃんとしていかなきゃいけないっていうふうに改めて思いました。

もう一つ先生からの「ああせい」「こうせい」ということは面白くないんだと。言うことを自由学習をすればするほど、強く感じているなっていうふうに感じるんですが、例えばクラブ活動なんかは、さっきあの生徒諸君に聞いてみたいと思ったの

は、部活動はそもそもどうなの。決定的な指示命令によって出来上がってる可能性があるんじゃないのかと。あるいはそれも生徒諸君が自らそういうことを望んでいる。あるいは保護者や先生たちが指示命令を望んでいる現状があるんじゃないか。その辺のこと。授業で「ああせい」「こうせい」っていうのはやっぱり面白くないんだってということがどういうふうに整合性があるのかっていうのを中学生に聞いてみたいなっていうふうに思いました。

もう一つは、そういった自ら考えて、人の意見を聞きながら深めていくっていう学問の本来の姿だと思うんだけど、そういうことと、高校受験とかテストと、どんなバランスで君たちの中にあるのかなっていうのは、聞いてみたいなというふうに思いました。いずれにしても勉強になることばかりでどれも素晴らしい意見で、とても面白かったなあというふうに思います。ありがとうございました。

伏木先生：

ありがとうございました。本多委員にちょっと1点確認なんですが、小学生が他の学校と交流したいっていうような声にたいして、集団の大きさが必要だっていうお話でしたが、その集団が大きくなって、その集団がかなり単一的な、多様性を欠いたものであると、今の話と少しずれてくれる気がするんだけど、小さくても小学校時代の交流、地域ごとにある小学校どうしが、いろんな形で交流するってことがあることによって中学校で一緒になったときのストレスが下がるっていうようにも私理解したんですけど。それから集団の大きさということとも絡むんでちょっとお話ししたいと思います。

本多委員：

単純に人間の数だけ考え方の数があるという考え方にのっとって発言してるんですが、子供たちのあの発言を聞いてると、多様な価値観とか、いろんな人に出会いたいっていう本能的なもの。新しいことを知りたいというか、そういった本能的なものっていうか好奇心というか、そういうものがものすごく旺盛だになっていうふうに感じたわけです。そういったものを満たすのに、例えば極端な話、日本にもそういう小学校がたくさんありますけども、1人しかいないとか、それだと日常生活の中で多様な意見とか多様な価値観に触れるってことはもう困難に等しい。オンラインの時代なので他校との交流はできるにしてもそれはあの頻繁に行われるわけではない。日常生活の中

で意見を闘わされたり喧嘩したり、そういった価値観のぶつかり合いってというのがまず望めないだろうという意味では、やっぱり子供たちの成長に応じた集団の大きさというのは非常に大事だになっていうふうに感じたという。

伏木先生：

了解しました。

なので、集団で仮に大きくなったときの条件としては、多様性が尊重されるってことですよね。これを欠いてはいけなくて、「これ言われた通りやれ」「これ以外はダメ」「授業は先生が一方的に進める」ではなくて、そこにいるメンバーがいろんな意見が言い合える授業であって、そういう空間であるといい。という、そういう理解でいいですかね。

本多委員：

はい。おっしゃる通りです。大きくなったからって本当に単一の言語や単一の価値観や、そういうものだけにがんじがらめになってるんだったら意味がない。っていうよりは、おっしゃるように環境ですよね、そういったものが発露できる環境を周りの大人なりが維持していくか、あるいは生徒同士でそういった環境を維持していくっていうことが非常に大事だなと。いうふうに思っています

伏木先生：

ありがとうございました。

では、続けて他の委員さん、いかがでしょうか？感想でも結構です。

垂澤委員：

感想になってしまうんですが、子ども達の今日の発表を見させていただくと、やっぱり対話とか多様性っていうことが非常に印象に残っていて、改めて幼児期保育園のときからの学びの連続性という部分は非常に大事だなというのを気づかされました。今日のお話の中でも坂口先生から幼保小の接続のお話の重要性の話ありましたが、決して幼保小で分断されてるんじゃなくて、ずっと続いているんだという1回目のあり方検討会議の内容を思い出して、それについて学びが深まったというのが感想です。

それともう1点、さっきの目の影響について質問させていただいたんですが、10年前20年前は本当に子供たちにタブレット1台なんていうことは想像もできなかった中で、じゃあこの先10年後20年もひょっとしたら幼児期からタブレットが1人1台の時代が来るんじゃないか、もし来るとすればどんな悪影響とか利点があるんだろうかっていうことも、今後考えていく必要があるのかなあというふうになんて自分の中で葛藤が生まれました。幼児期やっぱり3歳、4歳ですが自分たちでルール作りとか判断できない時代なので、なかなかすぐにタブレットって難しいかもしれませんが本当に10年前、20年前は、考えられなかったことが、今起きてる時代ですので、この先の教育がどういうふうになってるんだろうなっていうのを、改めて考えさせられました。ありがとうございました。

勝山委員：

今日、児童生徒さんたち話を聞いてて、まさに個の成長段階によって、その自分たちが学びたい中身の視点っていうんですか、それがやっぱり変わってくるんだなっていうのを感じました。例えば、今日この作文を読んでもそうなんですけど、いわゆるパソコンなどの機器、それから実体験とか、様々な視点で書かれているんですけども、例えば小学校6年生のAさんが、今日もお話しましたがそのきゅうりを作るという、でも作文の中にはシャキシャキしているのがっていうことが書かれてるし、このとき音楽のことを例に挙げて協力して一つの音を作っていってそれを音楽会に結びつけるとか、それから、家庭科で作ったものが完成してるっていうこの小学校のお子さんたちは、草木染をiPadでもね、広げたとかっていうこの機器を使った喜びもあるんですけども、確かに感じてるのは実体験から、それも点数に表せられないものを感じていると。

中学に行くと、当然グループや彼らが話したのは、話っていうのは非常にコミュニケーションを中心にしながらも一方で、それを広げるためのパソコンを上手に利用しているっていう、こういうふうに広がったことを考えると、我々も教育と一緒に作っていかうと考える者たちは、その後どのような形でね、どの時期に何をしておいてあげればいいのか、1人1台だからそれを無理に使うこともいいとは思わないとかいているし、中には常盤中学校の生徒さんですかね。パソコンの技術がないというちょっと自分もショック受けたんですけども、こういうことが起こってはならないことだと思うんですね。ですから、そういう点で、お子さんたちに聞きたかったのは、教師に何し

てほしい、その中心に立つ学校って何してほしいっていうところで、やっぱり支援みたいな形で言われたと思うんですけど、それをやっぱり系統的に考えてってあげるものがすごく必要なのかなって感じました。

伏木先生：

ありがとうございました。

今日一緒にファシリテーター担当してもらった宮崎さんから全体通して、いろいろ感じられたと思いますので。お願いします。

宮崎委員：

本日ですねご挨拶することもなく突然ここに現れてなんというふうに思われる方もいらっしゃると思います。失礼いたしました。宮崎愛斗と申しまして、今回いらっしゃる本多先生のもとで学生生活を送ってきまして、今回こういった場を設けていただきました。まだまだ経験不足ありますけれども、委員の一員として須坂の教育のことを考えていければいいなと思います。よろしくお願いいたします。

ということでですね、今回本当に子供たちの意欲的な姿というものを目にしまして、私自身もまだ大学生という身ではあるんですけども、見習うべきところはすごく大きく二つあるなと思っておりました。その中でもちょっと3点ほどになったところがありまして、まずはその交流の場作りっていうのは必要性が大きいのかなと思いました。でも学生さんの皆さんやはりオンラインでもすごく環境が整ってるだろうと思うんですけども、やはり対人コミュニケーションというものをすごく必要に思ってるのかなというふうに感じました。しかもその地域内、同じ環境にある同じ市内での子供たち仲間と交流をしたいということ、これがすごく印象的でした。ただやはり、その場の部分がちょっと足りていないのかなという印象を受けます。その中学生高校生もそうなんですけれども、やはり学生が自由に出入りできる、つまりその民間の塾とか、そういう環境ではなくて、公の場で出入りしていろいろ意見交換等できる、そういったスペースがちょっとやっぱり薄い部分があるのかなというふうに思っております。そんなところで、この僕自身もちょっと博物館に出入りをしたりしているんですけども、そういったところで自分でもできる場所っていうのを考えていきたいと思いました。またもう一つはその ICT の付き合い方っていうところで、多分もう健康面はやっぱりちょっと心配だなというところは、先ほど垂澤委員よりあった通り思い

ました。またそのルールとマナーという部分。やっぱり自分で考えなきゃいけないその年、年齢になる手前で入ってきてる部分っていうのは正直あると思うんですよね。やっぱりどうしても低年齢化したときに最初に手にするのがこういった機器だとすると、ある程度のルールというのはもうしっかり植えつけなければならない部分というのは出てくると思うんですがその中でも自立性っていうものが大事になるっていうことで子どもたちから聞いた方がすごく印象的でしたし、やっぱりそういう導入をしていくところのあり方っていうのがどう考えていけばよいのかというのが自分でも気になりました。最後にこの地域教育の必要性というものも感じまして、さっき私の方で須坂のことということで伺ったんですけれども、なかなかこう、やっぱりもう身近過ぎるがゆえにわかりにくい、なかなか思い浮かばない地域の良さというのものもあるのかなと思います。須坂人がすごく温かいという部分は出てきておりまして、特徴的なボランティアをしてる人とか、いろんな特技を持っている人とか、そういった出会いっていうのはなるべく早いうちからして、将来、例えばこういう、先生から原風景という言葉がありましたけれども、そういった、いかにその記憶をたくさん須坂に関する記憶を持ってくれるかっていうところで、今後その子供たちが戻ってくるのかどうかということになってくるのかなと思いました。すいませんちょっと早口でありますけれどもそんなところが印象的でした。

新野委員：

非常に興味深い会だったなと思うんですけど。ちょっとスペシャルなんじゃねかなって小学生、中学生もですね、これ普通の小学生、中学生の人たちはどう答えるのかなと。普通のって語弊があるんですけども、私は高校3年生から小学校1年生までの子どもがいるんですけども、やっぱりはっきり比較してですね大変優れてると思うんですね。文章の構成部から語彙から始まって、発言力というところからにしても、ほっといても自分からどんどん探求してくだろうなっていうことを感じました。教えていただいたことは、何か学ぶってことは誰かから何かを教えてもらってことではなくて、自分が何を知りたいのか何をしないのかっていうことを自ら明確にしていってということが、学ぶことの本質に近づいていくことなんだなということが、小学校中学校でもそれを言葉にしていけるということに大変感銘を受けました。その上でなんですけども、小学生はやっぱり五感が大事なんじゃないですかね、ここに書いてある作文を見てもそうなんですけれども、特にこのAさんの文章というのが、

本当に五感と自分の意志、他の子たちはちょっとは違うと思う文章を書くのもやだになっていうことを言えるかもしれないんですけども、でもその文章を書けるようになったのが、知らないうちの積み重ねだったんじゃないかっていうことなんだと思うんですね。それに対して、中学生どうかというと彼らから出ている文章は効率的だってことが多いんですよ。効率的ってどういうことなのかっていうことなんですね。

ただ調べる時間短くしたくて、その短くなった時間を自分の思索にふける時間を延ばしたいのか、ただ課題を解決するために使うのかといったことは注視してかなければ、やっぱりいけないんだという風に思うんです。私自身感じてるのは知能指数でgファクターっていう話があって言語だとかある程度の能力を発揮していくのが相関関係ちゃんとありますよと。その中の一つとして、1人でちゃんと質問することができ、協力をすることができるっていうのは、とても大事な、素養になっているということであれば、iPadであろうがパソコンであろうがそれを一つのツールとして、皆さんで話し合いながら解決していくっていうことに、ものすごくその本能的にですね、引かれてる部分があるんだということは感じ取ることができました。そういったことをやっぱりこれから大事ですかね。実際に社会人になってきて、今私達の会社でもそうなんですけど、新入社員、人に物を聞くことができなくてですね、その何も知らないうちに過ぎていくっていうことがどんどん多いふうに聞いております。そういう意味で言えば、教育の場においてもわからないことを聞いていく調べていく、他人に尋ねる、とても大事なのかなあというふうに思いました。

以上でございます。

宮川委員：

本当に今、新野委員からの、おっしゃってもらったように本当にスペックが高いというかこれだけの意見を言えるっていうのはすごく頼もしいなっていうぐらい感じました。その中で今日私はPTAの関係でも、携わって今のこの場にいるんですけど、もう親という言葉が本当に少なくて、出てこなかったなというふうに感じています。私学びのあり方の中で、子供たちに対して、先生や親が一番子供たちが一番近い学びに近い人たちだという風に思うんですが、私はそこにプラスアルファじゃなく本当に全く関係のない大人っていうか、地域の人、いろんな方々の大人たちが、その子供たちに対し学びに携わらないとこれからは伸びていかないと、必ず必要な部分じゃないかなと思っています。それは今キャリア教育っていう言葉も非常に多く出ていま

すけれども、職業っていう部分でなく、大人との関わり方をどういうふうに子供たちができるか、いろんな人たちが先ほどの子供たちの中でいろんな人といろんな友達と関わりたいということがあったんですけども、やはりそれは同世代というか、ほぼ多少の差はあるかもしれないんですけども、ほぼ同世代の人たちとのかかわりなんですけれども、社会に出た時に本当に上から下まで様々な人と関わっていかなければいけない、そういった場所に数年したら飛び出してしまうと。先ほど新野委員の意見にもありました通り、今の若い人たちが本当に質問っていうか、聞くことができず、とにかく iPad だとかパソコン等で調べて答えが出たら、それがよし、そこで考えることをせず、考えることしないで、答えを見てそれが正しいと思ってしまう。やっぱりそこがちょっと現実、非常にみんなが困っている部分の本質なんじゃないかなっていうふうに私個人的に思ってます。そんな中で、いろんな機会を場を作る。それは本当にこれ全く関係のない一見無駄なような、集まる場所でも、子供たちが学び取れる部分っていう機会をいかに周囲の大人たちが作ってあげれるか、そこが私は大事だというふうに思っています。そんな中、個の力とチームの力、そこをどのように子供たちに対して考えさせることができるか、やはりストレスを与えてストレスを与えないと、ある程度の部分を飛び越える力っていうのは、私はできないと思うので、やはりそれなりにいろんなものを見せることが必要かなっていうふうに、今日子供たちの意見を聞きながら感じました。

田尻委員：

今日はとても子供たちの意見を聞けるってことはすごい私も親なので小学生と幼稚園の子ども親なのでとてもいい経験をさせていただきました。その中で、A小の子たちが自由進度学習っていうものをしていると言っていたんですけども、これはA小に限ったことであるのでしょうか。

伏木先生：

いくつか他の、D中でも少し取り組み始めたってこともありますが、極めて少ないです。

田尻委員：

私が小学生時代は自由進度学習というものはなかったので、言葉自体ちょっと聞きなれない言葉でこういう学習の方法もあるんだなっていうのを今日勉強させていただいて、私達は須坂の子供の学びのあり方を考えていくんだけれども、なんか今日いろんな小学校だったり中学校の子供の話を聞いてると、この学校ではこういうやり方をしているけど、うちの学校ではこういうことをしていない何かちょっと、須坂市全体の子供たちが統一して学ぶ、そういうことができていないのかなってここを方向が違うというか、その学校それぞれの特色があってはいいいとは思いますが、須坂市内の子供たちが全員学んでいくにあたって、同じ統一したやり方じゃないとなんかちょっとどうなのかなっていうのがなんかちょっと素朴な疑問というか、ちょっと話がまとまらないんですけど。

伏木先生：

では、自由進度学習を昨年から取り組んでおられるというA小の校長先生から、今日のお子さんの話も含めてね、田尻委員からの素朴な疑問からめてちょっとご発言いただけますでしょうか。

佐藤委員：

私がお答えするには非常に難しい問題なんですけれども、今日子供たちの話を聞いていて非常に思ったことは、自ら進もうとか、自ら学ぼうとか、そういう姿をどの子も持っているんだなということを知らされましたし、そういうことを大事にしていかなきゃいけないんだなという、いうふうに思います。学力とかそう生活環境とかそういうことは関係なく、どの子も持ってるんだっていう、どの子も持っている力と私達は一人一人真摯に向き合って、この子の学びはこうしていくといいんじゃないかというふうなふうに、ぜひ考えたいなというふうに思って、あの自由進度学習というのは取り組んでいます。スピードが早い子もいればゆっくりな子もいれば、いろんな多岐にわたって調べ進んでいく子もいれば、一つの方法にこだわる子もいれば、いろんな子がいるわけですけどもそういうその子が持つ学びたいという気持ちを大事にしたというふうに思って自由進度学習は取り組んでいます。

もう一点はうちの子供たちの発言を聞いていて、小学校4年生でもうこれから自分たちは多様な中に生きていくんだっていうことを知ら知らずのうちに肌で感じているということにびっくりしました。いろんな人とやっていくんだ、それから、社会に出

たら自分で考えて決めていかなきゃいけないことがあるんだというようなことを肌で感じている子供たちをやっぱり私達は支えていかなければいけないというふうにも思います。須坂の子供たち須坂市には教育大綱がきちんとあって、そこにのっとってそれぞれの学校を特徴を生かしながら進んでるわけですけどもそれぞれの学校が試行錯誤していることは、いろんな場で共有しながら子供たちに即して広がっていくものも多々あると思うっていうふうに考えています。

伏木先生：

ありがとうございました。田尻委員そのような答えでよろしいでしょうか。全国に3万校くらいの小中学校がありますけど、自由進度学習を取り入れている学校は100校ありません。自由進度学習も大雑把に言うと1割です。1年間の授業の中のほんの1割なんです。でもその1割が子供を変えれるってことなんです。さっき佐藤先生からお聞きしたんですけど、さっきのD君、自慢できるというA小の自慢できるところってあるじゃないってリンゴをやってる事例が出てくると校長先生と教え子が期待したんですけど、D君の答えは自由進度学習をやっていることです。とおっしゃったそうです。それくらい子供たちにとってはそういう学びが影響与えているということだと思うんです。そんな自由進度学習の中で、大変中学校の先生たちにとっては、意識の違いがあるというかハードル高いんですけどそこで何かやろうと思われるD中の島田校長先生、島田委員お願いします。

島田委員

子供たちまず自由進度に行く前に子供たちの言葉を聞いていると、やっぱり資質能力ベースの新しい学習指導要領そのものをやっぱり子供たちが指向しているんだなっていうことをすごく感じました。そういった中でD中も当然 ICT の活用を進めていくんだけど、それはあくまでツールであって、子供たちがどういうふうにとってる力を伸ばしたりとか、主体性をどう伸ばしていくのかってことを考えたときに、一つの切り口として自由進度学習を取り入れていくことも考えられるのかなってことで今、本校ではそこに関心を持って実際には技術家庭、技術の時間に少し試行を始めたりにしているところです。先ほどA小の佐藤校長先生も言ったように、やっぱ子供たちは本来的に持つる自ら学んでいきたいってなところをやっぱり今まで子供たちが行く度に言ってるように、やっぱり画一的であつたりとか教授主導の授業でその目を潰し

ていく、意欲をどんどんと減退させているってところがあつたんじゃないかなっていうことを反省として感じていて、そこに立ち返ってなんとか子供たちに主導権を渡して、もちろんそのパッケージとしてはこちらが一生懸命いろんなことを考えて進めていくんだけど、やっぱり子供たちを信じてやっていくだけの、ていうのかな、構えを1人1人の教師が持てるそんな学校にしたいなっていう思いもありまして進めていきたい、ただ自由進度学習がもちろん全てではないというふうに思っていますので、全ての学校が須坂市内すべての学校が自由進度学習をしなければならないってことよりも、どういう切り口で子供たちの主体性であったりとか学んでいこうという力を伸ばしていけるようなアプローチがその学校ごとの置かれた実態の中で、やはりそこにスタッフの中で生み出していけるのかってことをやっぱり各校が責任を持って考えていかなきゃいけないし、そこを校長会等の中でも情報交換しながら共に切磋琢磨しながら同じように子供たちを伸ばしていきたいなということを今思っているところです。

山岸委員：

昨年度のこの委員会、あり方の方向と、重ね合わせていろいろ考えていたんですけども、例えば小から中に上がるときに、コミュニケーションが出来ちゃってるじゃないか。ていうようなだからもっと前からっていうような、そこでオンラインで何かできるってということもあるし、そのときに例えばあの昔、中学校1年生を対象に、元小学校の先生との対談みたいな時間があつたんですね。そのとき私なんでこんなことするんだろうってね、中学校に入ったら何年何組の何さんだって、でもしばらくそれ続いたんですよ。今は当然もうないと思うんですけども、そう考えると、もうしっかりと行事にしても、学校目標にしてもICTの活用にしても、位置づけて定着させていくべきことっていうのは、もう少し精査して、やるんだったらしっかり定着させるっていうことがあるのかなというような気がしています。ICTで言うと、間違った情報だったらごめんなさい、須坂市の公民館が毎朝オンラインで公民館の朝会をやってるような話も聞いてるんですね。なるほどなというようにも思うし、ある学校、長野県じゃないんだけど学校目標が、分らない事を聞ける学校にしようみたいな、学校目標にしている学校があるっていうような事も耳にしています。そんなところもっと切り口で入れるべきところをまとめていけることってあるのかなというような感想を持って聞いていました。

坂口委員：

本当に小学生、中学生素晴らしいなと思って聞いている中で、やっぱり大事なのが一人一人いろんな委員の皆さんから出てきてますけど、一人一人その子にとってどうかっていうこと、この時間を持った子供たち、それから今日、立派に意見を発表してくれた生徒さんたち、含めて本当に1人1人にとってどうかっていう視点を持っていきたいなっていうふうに思ったことと、改めて幼児期の体験、そういった体験とか、子ども達、友達と何か学ぶことが楽しいという意見が多かったので、そういうやっぱり経験が小さいところから、誰かとかかわった、楽しかった、面白かったっていう経験の土台があるからこそなんだろうなって思って聞いてました。なのでそういう幼児期、育てることの心情意欲をますます大事にしたいなというふうに思いました。

それからちょっといろいろあってすいませんまとまらないんですけど、中学生の方が友達のコミュニケーションで困ったっていうところで交流の場があるといいなという話もあってもちろんそういう機会とか宮崎委員さんが言ってくれた、居場所作りみたいなところもすごく大事だなと思うことと、コミュニケーション能力をしっかりと育てていく大切さも改めて感じました。

ありがとうございました。

伏木先生：

はい、ありがとうございました皆さんから貴重な意見いただきました。今日のもう一人のファシリテーターの宮崎委員からは、三つの事を提示していただきましたけど、そのうちICTの使い方とか言ってきましたけど、実は私20年前ですね、東京の東京都内で小学校に教員をやっているときに、教室内にインターネットを入れました。教室にパソコンがあってフルに使えるものです。電源を切ると全部データ消えるんですけど、何でもできるという、フィルターをかけなかったんです。想定内だったんです。子ども達が悪さをするのは。全部ログが残るので。後で静かに諭しました。3カ月もしないうちに子ども達は自分たちで自主規制をするようになってきました。そういう在り方もあると。子どもを一人前にしていく。信用していく。子供たちの中の自立的な力を信じていくっていう。でもそれにはリスクがあります。どこまでコントロールするか。そこは大人がしっかり考えなきゃいけない。これが統一取れていないのが現在の私達の国の中のICT活用なんです。フィルターをかければかける

ほど子供たちの自立性は下がります。安心だけど。そこんところをどう考えてるかっていうのが、私達も考えなきゃいけないかなと思いました。

それから宮崎委員から交流の場作り地域教育の話がありました。ぜひ学校どうし、学年同士もいいけど、異年齢交流や、学校種間交流みたいなものが、まずインターネット等ＩＣＴを使いながらでもいいし、行事を通してでもいいけど、須坂市中の子供たちがもしかしたら地域の大人を含めて、ＰＴＡも含めて、世代を超えて何かの繋がりがあったり参加し合ったり、そんな仕組みを作ることが今日の子供たちの声、言葉にはなってなかったかもしれないけど、その背景にある大事なメッセージだったのかなって思います。最後に私自身は自立的な学びっていうことを研究テーマにしているので、新野委員からも協力する、人に聞くというそういうことの大事さが提言されましたけど、若い教員、一年目、二年目の教員は就職して、先輩に聞けないというですね。聞かないんだあいつらはといいます。だいたいの人たちは。若い人たちに聞くと、あまりに先輩たちが忙しすぎて、私なんかのこんな素朴な問いを投げかけて、忙しさを倍増したら気の毒だ。邪魔しちゃいけない、そう思うんだそうです。何とかこれしないと。双方向の学びが成立しないなあというふうに思います。自立的に学ぶ学習者のキーワードが、昔私達がやってきた弱点克服。ミスのない何でも穴のないようなオールマイティな人間作りを学校教育がやりすぎてきた。世界の教育先進国はそんなことやらないんです。興味のあること、得意な事を、そこを強めることによって自己肯定感が高まり、そして自信がないところはどうするか人に聞くんです。人を頼るんです。自分にできないことをできる人と繋がるんです。そうやってお互い補い合っていくコミュニティ作りが自立的に学ぶアクティブラーナーなんですね。私達日本の学校教育はあまり得意じゃないです。弱点克服なんで。誰もが一通りできる子を育てようとしちゃうんですね。それがいいとか悪いとかの問題じゃないんだけど。今この少子化、こういう状況になって意外に異年齢交流、校種を越えた交流、世代間交流そんな中で、学校の教室の中での学びも少し変わっていく必要があるかな。その土台となる理念に基づいて、これから学校統廃合や、いろんなシステム改革が考えられる必要があるかなって今日は改めて思いました。ちょっと時間オーバーして大変申し訳ありません。皆さんのおかげで大変貴重な実りある意見交換があったかなと思います。では事務局の方にお返しします。

（２）次回内容について

中村課長：

はい、ありがとうございました。

それでは私の方から次回内容について簡単に説明申し上げます。

次回８月の24日に第３回目の検討会を開催いたします。会場は旧上高井郡役所になります。また地図をお送りいたします。議論のテーマは個別最適な学びと、自立的な学びを進める取り組み、もう一つ、特別支援教育の視点から一人一人の可能性を伸ばす取り組みであります。特別支援教育の視点から、一人一人の可能性を伸ばす取り組みに関して、ゲスト委員として、豊野高等専修学校の市川校長先生に参加いただきますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

６ 閉会

清水次長：

はい時間過ぎましたが、長い間ご議論いただきまして本当にありがとうございました。伏木先生も進行ありがとうございました。次回は今説明した通りでございます。また次回もよろしくお願いいたします。以上をもちまして第２回須坂市子供の学びのあり方検討会議を終了させていただきます。本当にありがとうございました。